



～共同募金ってどんなことに使われているの～

社会福祉法人和歌山県共同募金会

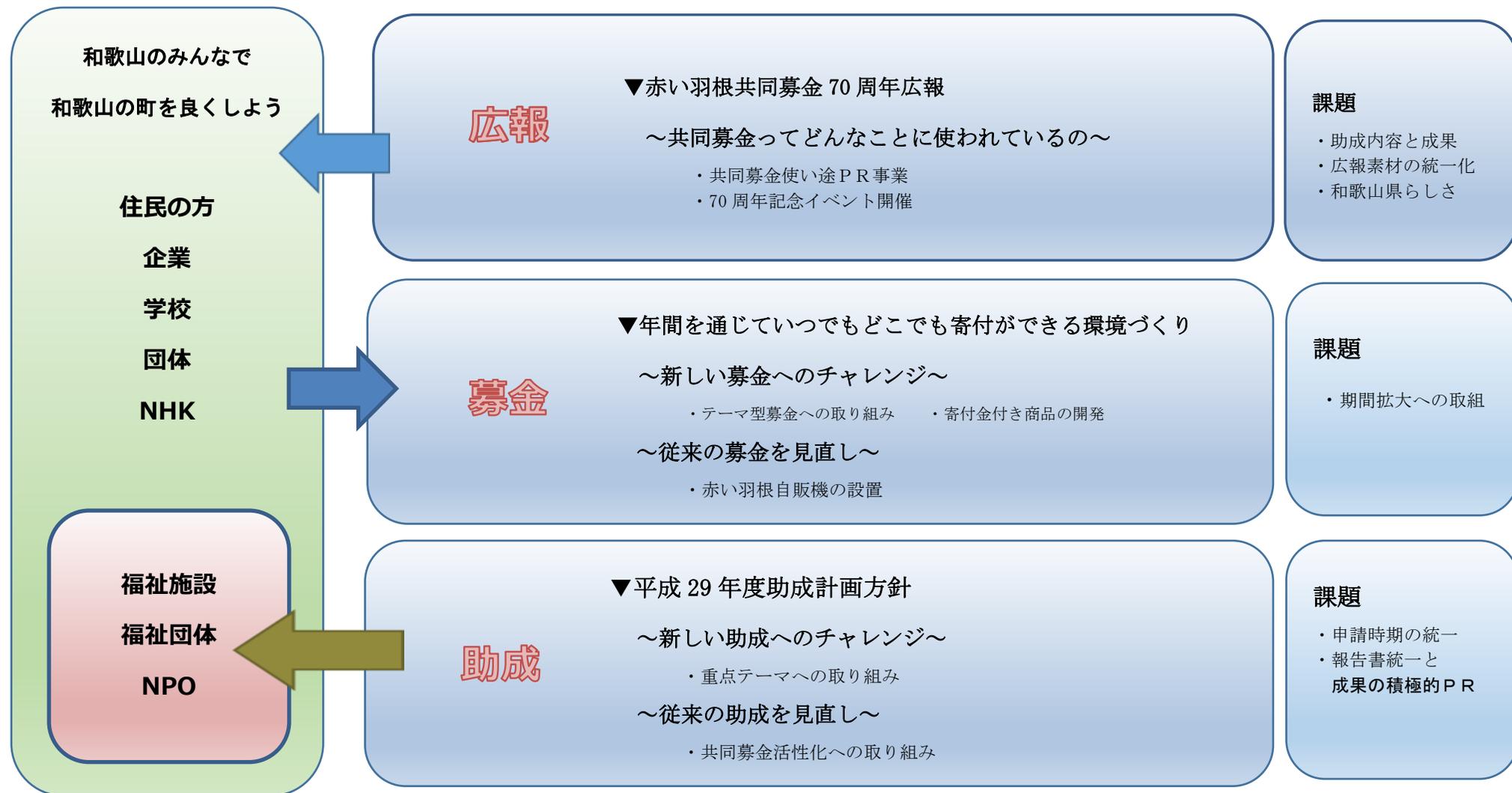
平成29年3月27日

## 目次

■広報・募金・助成活動	展開イメージ	2
■広報事業	共同募金70周年事業への取り組み	3
	共同募金70周年広報事業	4
■募金事業	年間を通じていつでもどこでも共同募金に寄付ができる環境づくり	5
	(表1) 期間拡大による新たなテーマ型募金	6
	(表2) 企業や商店との協働による寄付金付き商品開発	6
■助成事業	平成29年度助成計画方針	7

基本コンセプト

～共同募金ってどんなことに使われているの～



## 共同募金70周年事業への取り組み

### 基本コンセプト ～共同募金ってどんなことに使われているの～

- 赤い羽根共同募金運動は平成 29 年度 70 周年の大きな節目を迎えます。
- これを契機に、記念事業を開催し、県民の皆様に赤い羽根共同募金の使い途を知って頂き、理解して頂くことにより、共同募金の運動性の再生を目指します。

#### 共同募金の現状

「赤い羽根共同募金」は知っている。募金をしたこともある。でも「何に使われているか知らない」平成 8 年をピークに募金額は減少の一途。

#### 共同募金の課題

H 1 5 年データベースはねっと導入。47 都道府県全市区町村での助成事業が全て網羅された、使い途の明確な公表を行うシステム構築。「透明性の確保」は大きく前進。  
しかし「何に使われているか知らない」という意見を払拭できずにいる。

共同募金実績の減少には様々な要素があると思われるが、災害義援金等「目的が明確」な募金への協力は非常に理解を得ており、大きな募金額となっている。

平成 27 年度赤い羽根共同募金	募金実績	約 184 億円
平成 28 年熊本地震災害義援金	義援金実績	約 473 億円

#### 今後の事業展開

これまでは募金額の増強を大きな課題として取り組んできたが、上記の状況を踏まえ、これを契機に、共同募金としては何のために募金を集めるのかを明確にし、使い途を県民(寄付者)に知って頂くことを最優先課題として、共同募金が理解を得られる運動に再生するための事業展開をしていきたい。又、広報・募金・助成事業全ての活動テーマとして、記念事業に終わらず、継続性のある展開をしていく。

#### 参考 中央共同募金会 70 年答申

- 共同募金は、地域住民や関係機関・団体との協働による地域課題や社会課題解決を図る「運動性」を有し、以下の機能を発揮する。
  - ①地域課題解決の必要性の地域への提起
  - ②地域住民の地域課題解決への理解と共感に基づく主体的参加、募金への協力促進
  - ③地域課題解決の活動や募金参加による満足感や達成感向上を通じての一層の協力拡大
  - ④募金運動を通じた団体の育成、組織力の向上
  - ⑤地域住民や団体等との協働による地域の福祉力向上
  - ⑥地域住民と団体をつなぐ、新たなネットワークの創造
- 共同募金は単に寄付を集めるための運動ではなく「地域福祉の推進」と「寄付文化の発展」を図る運動である
- 70 年の間に徐々に失われた共同募金の運動性を再生し募金運動を活性化させる必要がある
- 募金運動の活性化により募金実績の増加を図り、今後増大する福祉課題解決のための資金ニーズに対応する

## 共同募金70周年広報事業

### 基本コンセプト ～共同募金ってどんなことに使われているの～

#### 共同募金使い途PR事業 (広報・啓発)

##### ▼広報内容

##### ・共同募金の使い途

「〇〇施設に〇〇円を助成しました」ではなく、ストーリー性のある構成の工夫など（どんな活動を行っている施設で、活動の中でどんな課題があって、共同募金で何が解決できたのか）寄付者の気持ちに届く広報

また、和歌山県の地域課題をテーマに、何のために募金を集めるのかを明確にした広報

##### ・ご協力に対する感謝

募金や啓発等共同募金運動にご協力いただいた団体や企業の社会貢献活動を幅広くPR

##### ▼広報の方法等

##### ・テレビやラジオ・新聞等報道機関との連携

スポット放送等に加え広報頻度を上げ、報道機関との連携強化による継続的な広報をする。

##### ・和歌山県らしさを出す

広報資材等媒体の統一によるインパクト強化  
県独自広報資材の作成

##### ・和歌山県運動テーマの設定

和歌山県の地域課題を軸に、運動目的を明確に活動を進める

##### ・県下各地域の広報

県内市町村共募との連携(シリーズ広報・リレーブログ等)

##### ▼運動開始時だけでなく、継続的な広報を実施

#### 70周年記念イベント開催 (タイトル・詳細未定)

##### ▼開催日時 平成29年10月1日(日) 予定

##### ▼開催場所 未定

H28年度運動開始セレモニー後に関係機関及び参加者にアンケート実施の結果、例年開催のJR和歌山駅前から休日の集客の見込めるショッピングセンター等への変更を検討中

##### ▼開催趣旨

- ・共同募金の使いみちの広報
- ・県民の皆様へ、ご協力の感謝

##### ▼開催内容 未定

- ・運動開始セレモニー等
- ・「募金活動」から「啓発活動」に重点を置いたイベント内容を検討
- ・特別助成(テーマ未定)

##### ～参考～ 60周年記念事業「ハートフルフェスタ 2006 in わかやま」開催

##### ▼開催日時 平成18年10月8日(日)11時～16時

##### ▼開催場所 和歌山会場オークワパームシティ 田辺会場オークワパビリオンシティ

##### ▼開催趣旨

- ・県民の皆様に対し、日頃のご協力に感謝の意を表す
- ・共同募金の趣旨、地域福祉への貢献を理解して頂く
- ・募金の増強・地域福祉の更なる向上を目指す。

##### ▼開催内容

- ・運動開始セレモニー・表彰式
- ・特別番組実施・生中継
- ・絵画・写真コンクール
- ・特別助成実施「防災・見守り」

年間を通じていつでもどこでも共同募金に寄付ができる環境づくり  
～期間拡大に伴う今後の取り組み～  
基本コンセプト **～共同募金ってどんなことに使われているの～**

- 全国一斉に運動期間が3月31日まで拡大され、10月から12月は従来の取り組み、1月から3月の延長期間をテーマ型募金等の新たな募金活動が実施できる期間となります。
- 県内の社会福祉課題を解決するための取り組みとして、延長期間を活用した新たな募金や従来の募金手法を一部見直しすることで募金額が減少する中、共同募金の活性化が期待できます。

テーマ型募金等への取り組み  
～新しい募金へのチャレンジ～

▼ 使い途を明確にした募金活動を実施

・ 期間拡大による新たなテーマ型募金

NPO等が直接寄付を呼びかけ（受配者指定）  
地域課題をテーマに募金（使途限定）  
「こんな課題を解決したい！」という明確な目的のある  
福祉団体が活動に必要な資金を自ら共同募金として寄付  
を募り、課題の解決に取り組む  
寄付者は福祉課題となるテーマを選択し主体的に募金  
共同募金会は、期間外の実施により、新たな募金開発  
(参考資料P6表1)

▼ 寄付者の生活スタイルに合わせた募金手法開発

・ 企業や商店との協働による寄付付商品開発

例えば自社製品の商品を、寄付金付き商品として販売。売上に  
応じた寄付を行う。本業を生かした社会貢献ができ、共同  
募金の信頼感による商品イメージのアップや販促の期待がで  
きる。  
(参考資料P6表2)

共同募金活性化への取り組み  
～従来の募金を見直し～

▼ 年間を通じた募金を推進

- ・ 赤い羽根自動販売機の設置
- ・ 運動期間外の募金箱を自動販売機に切り替え

H29年1月現在県内41台設置

年間募金実績 約80万円 (1台年間約2万円)

過去10年間の減少額平均年間300万円をカバーするためには  
目標設置台数 150台

▼ イベント募金の見直し

・ 体験型ブースの設置等

イベントの際に、「募金を募る」だけでなく使い途の紹  
介体験等に親しんでもらうことで共同募金への理解を深め  
る

▼ 企業等への協力依頼の見直し

・ 企業の協力内容意向や・リットを考慮した取組

企業の社会貢献活動をHPや報道機関との連携により広報

・ DMの内容見直し

使い途のPRを充実させ、共同募金への理解を深めて貰い、  
募金への協力を繋げる

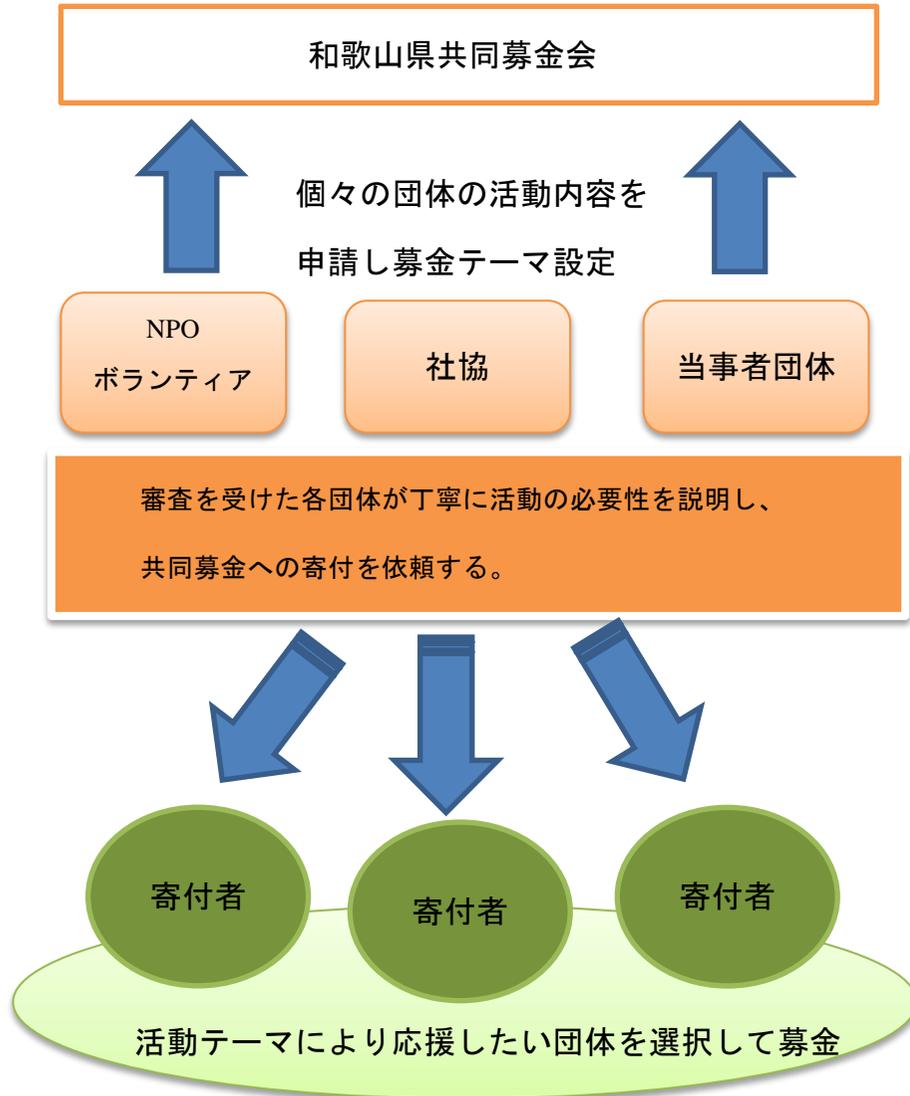
H28年度DM送付数約3900件

H29年度DM送付数約10000件追加予定

・ 協力企業へのアフターフォローを市町村共募と連携

(表1) 期間拡大による新たなテーマ型募金

NPO やボランティア団体自らが、活動や解決しようとする課題を地域住民に直接訴えながら募金活動を行う。



(表2) 企業や商店との協働による寄付金付商品開発

企業や商店との協働により、寄付付き商品を販売、売上に応じた寄付を行う。

赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」



広告代理店アクト・スリー(岩国市)  
「アクト・スリーの「じぶんの町を良くする名刺」プロジェクト ～じぶんの町を良くする名刺交換をしませんか?～」  
「募金百貨店プロジェクト」のロゴマークを印刷した名刺1枚につき1円、1セット(100枚入)ご購入の場合は100円を赤い羽根共同募金に寄付し、あなたの町の福祉を良くします。※ 寄付先となる「じぶんの町」は、山口県内の市町の中からお選びいただけます。

Yamaguchi Prefectural Community Chest Of Japan

赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」



有限会社アシスト(山陽小野田市)

「町を良くする工事プロジェクト」  
工事現場等で使われる安全資機材のコーン・ソーラー工事灯・バリケード・看板等、主力商品について(有)アシストに販売・レンタルのご注文をいただくと、売上の1%を、赤い羽根共同募金を通じて、工事が行われている町の福祉を良くする活動に寄付します。  
さらに、寄付額が一定額を超える現場には、「町を良くする工事中」と書かれた看板を、無償提供します。  
「町を守る防災・防犯プロジェクト」  
老朽化した消火器の破損事故を防ぎ、町を守るため、専門有資格者をご相談に対応させて頂き、古い消火器の回収と新しい消火器・住宅用火災警報器のご購入及び防災・防犯グッズの購入について、売上の1%をお客様の町の福祉を良くする活動に寄付します。

Yamaguchi Prefectural Community Chest Of Japan

平成29年度助成計画方針

基本コンセプト **～共同募金ってどんなことに使われているの～**

- 最近の募金傾向をみると、募金目標額と実績の乖離も大きく全般的には減少傾向にあります。実績の減少には様々な要素があると思いますが、災害義援金等緊急性又は目的が明確な募金は全国的にも寄付者の理解を得て大きな募金額となっています。
- 寄付者に対して「使い途を明確にした募金活動」を実施することで、助成事業の透明性を確保し、「何に使われているか知らない」といった意見を払拭できるように、共同募金の運動性の再生を目指します。
- 共同募金 70 周年の大きな節目を契機に、助成事業についても地域が抱える課題解決の取り組みを重点的に実施し、従来から実施してきた取り組みを見直しすることで、共同募金の活性化が期待できます。

重点テーマへの取り組み

～新しい助成へのチャレンジ～

- ▼ 70周年記念特別助成 7,000千円
  - ・地域の見守り活動や災害への備え等
  - ・地域の募金活動への感謝と共同募金は自分の町を良くするしくみであることを実感して頂ける助成
- ▼ 重点課題への取り組み
  - ☆安心安全 1,500千円
    - ・福祉施設等の福祉避難所運営訓練災害対策への支援
  - ☆高齢化 3,000千円
    - ・孤立防止や健康づくり支援
    - ・福祉施設等の高齢化対策
  - ☆青少年・子どもの育成 4,000千円
    - ・子どもたちの健やかな成長促進や孤立防止の支援
    - ・福祉施設等での安全対策
  - ☆地域課題に取り組むNPO活動支援 3,000千円
    - 地域の課題をテーマに活動する団体支援

共同募金活性化への取り組み

～従来からの助成を一部見直し～

- ▼ 助成申請の時期を統一
  - ・9月申請に募集時期を見直しすることにより、申請から交付までの期間を短縮
- ▼助成事業終了後の報告書を統一・成果を公表し積極的にPR
  - ・助成施設団体の共同募金の使い途を地域住民の方に積極的にPRするため、成果報告を徹底（書式の統一）
- ▼ 従来からの助成を見直し ▲10,000千円
  - ☆福祉施設改修助成終了（H26年度から3か年実施）
    - ・特別枠で実施してきた施設改修は一定の成果を報告し、平成29年3月3日28年度で終了。以降は通常助成枠で継続
  - ☆福祉団体の事業運営助成は3か年を限度として支援。但し、上限額を1年目3/3、2年目2/3、3年目1/3とする。
  - ☆その他従来からの障がい者自立支援等の助成については必要性等を鑑み通常助成枠で継続

